



フリー・エディター/ライブラリアン

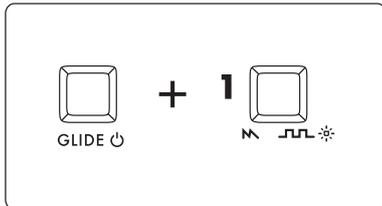
フリー・エディター/ライブラリアン・ソフトを使用するとSirinの全パラメーターのエディットやオートメーションをDAWから行えます。フリー・エディター/ライブラリアン・ソフトは、MoogウェブサイトにてSirinの製品登録後に入手できます：Moogmusic.com/register

プリセットのセーブとプログラム・チェンジ

フリー・エディター/ライブラリアン・ソフトを使用して、128個のプログラムをSirinにセーブし、ロードできます。また、SirinはMIDIプログラム・チェンジ・メッセージに対応していますので、ほとんどのMIDIコントローラーでSirinのプリセットを切り替えることができます。

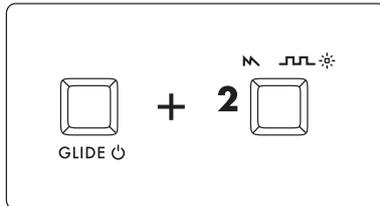
1つ次のプリセットを選択：

GLIDE + OSCILLATOR 1 WAVE



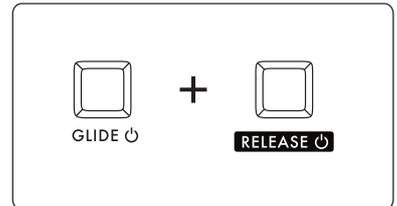
1つ前のプリセットを選択：

GLIDE + OSCILLATOR 2 WAVE



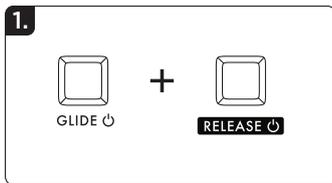
現在選んでいるプリセットに上書きセーブ：

GLIDE + RELEASE
(両方のボタンを約1秒長押し)



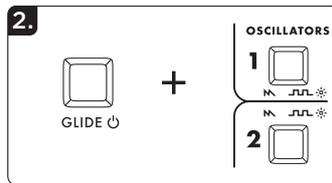
別の場所にセーブ：

GLIDE + RELEASE
(LEDが点滅します)



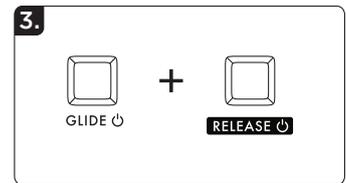
保存先のプリセットを選択：

GLIDE + OSCILLATOR 1または2



プリセットをセーブ：

GLIDE + RELEASE
(RELEASEのみを押すとセーブせずにキャンセルします)



モジュレーション・ソース

6種類のモジュレーション・ソースから選択できます：三角波、矩形波、ランプ波、ノコギリ波、サンプル&ホールド、フィルターEG(MIDI CC#85)

ハード・シンク

VCO2のハード・シンクを使用して多彩な音色が作れます(MIDI CC#80)

オシレーター2のモジュレーション

オシレーター2のみにモジュレーションをかけることができます。ハード・シンク使用時に効果的です(MIDI CC#112)

CVマッピング

SirinのPitchとVolume CVのインプットはSirinの他のパラメーターのコントロールに再マッピングできます。また、Gateインプットはオシレーターの波形などのようにオン/オフスタイルのパラメーターに再マッピングできます。

注意：CV/Gateの再マッピングはフリー・エディター/ライブラリアン・ソフトで行います。

CVからMIDIへの変換

Sirinは複数のCVをMIDIに変換できます。これにより、Moog Mother-32のようなCVソースをMIDIメッセージに変換してプラグイン・エフェクトやソフト・シンセ、外部MIDI機器のコントロールも可能です。

警告：CVからMIDIへの変換を適切に行うには、外部CVの電圧レンジを0~+5Vの範囲内に調整しておくことが重要です。マイナスの電圧や+5V以上の電圧は使用しないでください。

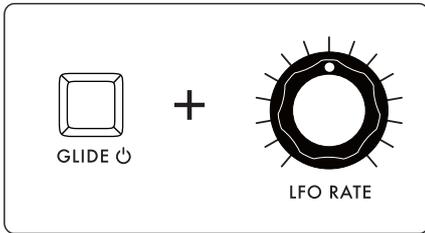


シフト・キーによる操作のクイック・リファレンス

GLIDEスイッチはシフト・キーとして動作し、色々な機能にパネルから直接アクセスできます。

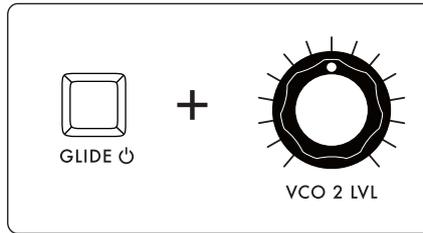
モジュレーション・ソースの選択:

GLIDE + LFO RATE



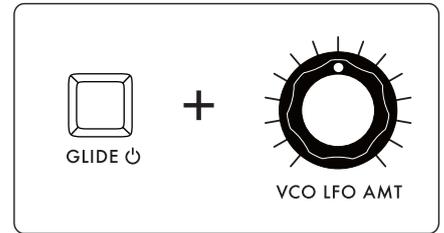
ハード・シンクのオン/オフ:

GLIDE + VCO 2 LEVEL



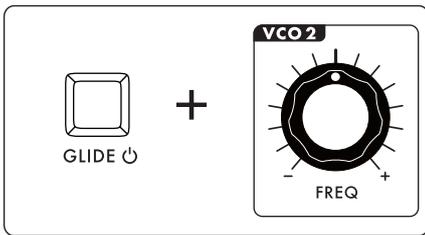
VCO2モジュレーションのオン/オフ:

GLIDE + VCO LFO AMT



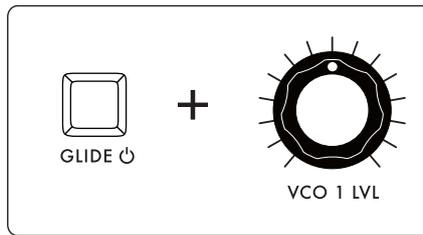
VCO2のビート・フリケンシー:

GLIDE + VCO 2 FREQ



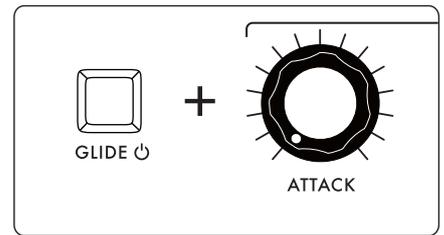
外部オーディオ入力レベル:

GLIDE + VCO 1 LEVEL



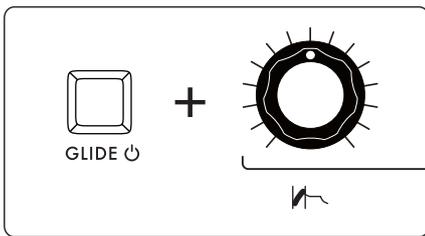
EGトリガー・モード:

GLIDE + AMP EG ATTACK



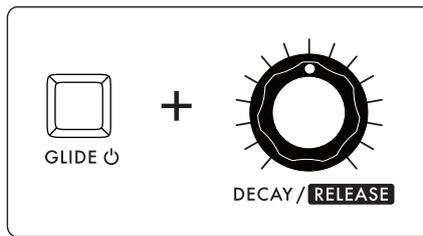
フィルターEGのディレイ・タイム:

GLIDE + FILTER EG ATTACK



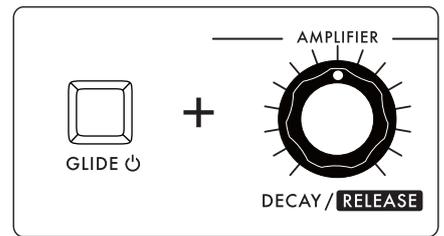
フィルターEGのホールド・タイム:

GLIDE + FILTER EG DECAY/RELEASE



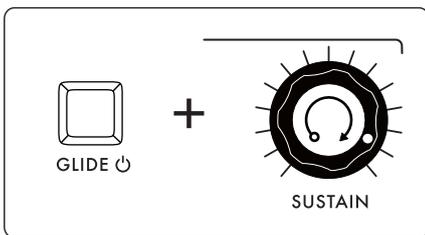
アンプEGのホールド・タイム:

GLIDE + AMP EG DECAY/RELEASE



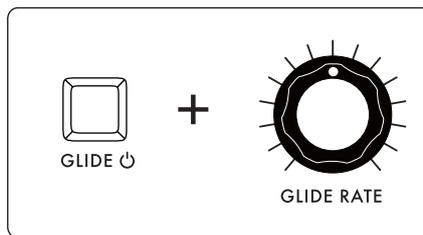
ドローン・のオン/オフ:

GLIDE + AMP SUSTAIN (Min to Max = ON)
GLIDE + AMP SUSTAIN (Max to Min = OFF)



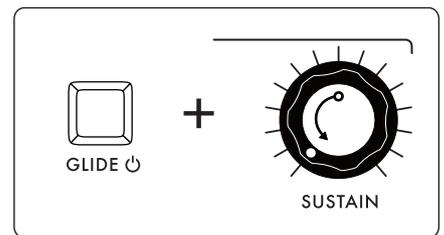
トップ・オクターブのワーブ・オン/オフ:

GLIDE + GLIDE RATE



パニック/オール・ノート・オフ:

GLIDE + AMP EG SUSTAIN TO ZERO.



ディケイ/リリース・モード

RELEASEスイッチを約1秒間長押しするとモード切り替えができます。この時、RELEASEスイッチのLEDが1回点滅した場合はモード1、2回点滅した場合はモード2になります。

モード1: ディケイとリリース・タイムがリンクし、RELEASEスイッチでEGのリリースのオン/オフを切り替えます。

モード2: ディケイとリリース・タイムを個別に設定できます。RELEASEの点灯時はDECAY/RELEASEノブでリリース・タイムを調節でき、消灯時はディケイ・タイムの調節ができます。



SIRIN

ユーザーズ・マニュアル



SIRIN

この度はMoog Sirinアナログ・シンセサイザーをお買い上げいただき、誠にありがとうございます。Sirin "アナログ・メッセンジャー・オブ・ジョイ" は、Moog House of Electronicus Pop-upエキスペリエンスを記念して生産されたリミテッド・エディションのシンセサイザー・モジュールです。伝説的なMoog Taurusベース・サウンド・エンジンとMoog Minitaurのボディをベースとし、オシレーターの発音域を最高D8まで拡大しました。Sirinは、1ノブ1機能の使いやすさを基本とし、簡単に音作りができるコンパクトなアナログ・シンセサイザー・モジュールです。お手持ちのMIDIコントローラーとSirinを接続し、すぐにパワフルなアナログ・サウンドをプレイできるポータブルなセットが構築できるだけでなく、USBでコンピュータに接続し、フリー・エディター/ライブラリアン・ソフトを使用して各パラメーターのエディットが行えるほか、DAWのオートメーション機能を使用して多彩な音色コントロールも可能です。

Sirinがあれば、ジョイフルな音作りの日々を末永くお楽しみいただけます。シンセサイザーが初めての方は音が出るまで不安があるかも知れません。そんな場合は、本マニュアルの前半部のベーシック・チャプターをよくお読みください。また、シンセサイザーに慣れた方も、時折本マニュアルに目を通して、Sirinに様々な機能があることを発見してみてください。

重要ですのでどうぞお忘れなく：色々な実験を通して使い方を学ぶことで、今後のシンセサイザー・ライフがさらに彩りのある楽しいものになります。

安全上のご注意

ご使用になる前に必ずお読みください

ここに記載した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、あなたや他の方々への危害や損害を未然に防ぐためのものです。注意事項は誤った取り扱いで生じる危害や損害の大きき、または切迫の程度によって、内容を「警告」、「注意」の2つに分けています。これらは、あなたや他の方々の安全や機器の保全に関わる重要な内容ですので、よく理解した上で必ずお守りください。

マークについて

製品には下記のマークが表示されています。

WARNING:
TO REDUCE THE RISK OF FIRE OR ELECTRIC SHOCK DO NOT EXPOSE THIS PRODUCT TO RAIN OR MOISTURE.



マークには次のような意味があります。



このマークは、機器の内部に絶縁されていない「危険な電圧」が存在し、感電の危険があることを警告しています。



このマークは注意喚起シンボルであり、取扱説明書などに一般的な注意、警告、危険の説明が記載されていることを表しています。

火災・感電・人身障害の危険を防止するには

図記号の例

	△ 記号は、注意（危険、警告を含む）を示しています。記号の中には、具体的な注意内容が描かれています。左の図は「一般的な注意、警告、危険」を表しています。
	⊘ 記号は、禁止（してはいけないこと）を示しています。記号の中には、具体的な注意内容が描かれることがあります。左の図は「分解禁止」を表しています。
	● 記号は、強制（必ず行うこと）を示しています。記号の中には、具体的な注意内容が描かれています。左の図は「電源プラグをコンセントから抜くこと」を表しています。

以下の指示を守ってください

警告

この注意事項を無視した取り扱いをすると、死亡や重傷を負う可能性が予想されます

- 電源プラグは、必ずAC100Vの電源コンセントに差し込みます。
- 電源プラグにほこりが付着している場合は、ほこりを拭き取ります。感電やショートの際れがあります。
- 本製品はコンセントの近くに設置し、電源プラグが容易に手が届くようにする。



次のような場合には、直ちに電源を切って電源プラグをコンセントから抜く。

- 電源コードやプラグが破損したとき
- 異物が内部に入ったとき
- 製品に異常や故障が生じたとき

修理が必要なときは、コルグ・サービス・センターへ依頼してください。



本製品を分解したり改造したりしない。



修理、部品の交換などで、取扱説明書に書かれていること以外は一切にしない。

- 電源コードを無理に曲げたり、発熱する機器に近づけない。また、電源コードの上に重いものをのせない。
- 電源コードが破損し、感電や火災の原因になります。
- 大音量や不快な程度の音量で長時間使用しない。
- 大音量で長時間使用すると、難聴になる可能性があります。万一、聴力低下や耳鳴りを感じたら、専門の医師に相談してください。
- 本製品に異物（燃えやすいもの、硬貨、針金など）を入れない。
- 温度が極端に高い場所（直射日光の当たった場所、暖房機器の近く、発熱する機器の上など）で使用や保管はしない。
- 振動の多い場所で使用や保管はしない。
- ホコリの多い場所で使用や保管はしない。



風呂場、シャワー室で使用や保管はしない。



- 雨天時の野外のように、湿気が多い場所や水滴のかかる場所で、使用や保管はしない。
- 本製品の上面に、花瓶のような液体が入ったものを置かない。
- 本製品に液体をこぼさない。



濡れた手で本製品を使用しない。

注意

この注意事項を無視した取り扱いをすると、傷害を負う可能性または物理的損害が発生する可能性があります



正常な通気が妨げられない所に設置して使用する。

- ラジオ、テレビ、電子機器などから十分に離して使用する。ラジオやテレビ等に接近して使用すると、本製品が雑音を受けて誤動作する場合があります。また、ラジオ、テレビ等に雑音が入ることがあります。
- 外装のお手入れは、乾いた柔らかい布を使って軽く拭く。
- 電源コードをコンセントから抜き差しするときは、必ず電源プラグを持つ。



本製品を使用しないときは、電源プラグをコンセントから抜く。電源スイッチをオフにしても、製品は完全に電源から切断されていません。



付属の電源コードは他の電気機器で使用しない。付属の電源コードは本製品専用です。他の機器では使用できません。

- 他の電気機器の電源コードと一緒にタコ足配線をしない。
- 製品の定格消費電力に合ったコンセントに接続してください。
- スイッチやツマミなどに必要以上の力を加えない。故障の原因になります。
- 外装のお手入れに、ベンジンやシンナー系の液体、コンパウンド質、強燃性のポリッシャーを使用しない。
- 不安定な場所に置かない。

本製品が落下してお客様がけがをしたり、本製品が破損する恐れがあります。

本製品の上面に乗り、重いものをのせたりしない。本製品が落下または損傷してお客様がけがをしたり、本製品が破損する恐れがあります。

本製品の隙間に指などを入れない。お客様がけがをしたり、本製品が破損する恐れがあります。

地震時は本製品に近づかない。

本製品に前後方向から無理な力を加えない。本製品が落下してお客様がけがをしたり、本製品が破損する恐れがあります。

データについて

操作ミス等により万一異常な動作をしたときに、メモリー内容が消えてしまうことがあります。データの消失による損害については、当社は一切の責任を負いませんのでご了承ください。データを他のメディア等へセーブすることのできる製品では、大切なデータはこまめにセーブすることをお勧めします。

輸入販売元: KORG Import Division

〒206-0812 東京都稲城市矢野口4015-2

///www.korg.co.jp/KID/

目次

ベーシック

パッケージを開けて中身を確認する.....	4
セットアップと接続.....	4
各パネルのオーバービュー.....	6
シグナルフロー.....	8
基本操作.....	9

コンポーネンツ

オシレーター.....	9
グライド.....	11
ミキサー(オシレーターのレベル).....	11
フィルター.....	12
エンベロープ.....	14
リリース.....	15
モジュレーション(MOD).....	16
ボリューム(VCA).....	17
インプット/アウトプット・パネル.....	18

MIDI

MIDI機能.....	20
MIDIコントロール・チェンジ(MIDI CC)リスト.....	22

付録

付録 A : MIDIインプリメンテーション・チャート.....	25
付録 B : Sirinのお手入れについて.....	26
付録 C : 仕様.....	26

パッケージを開けて中身を確認する

中身に漏れがないかどうか念のためご確認ください。

Sirinには次のアイテムが入っています：

1. Sirinアナログ・シンセサイザー本体
2. DC12V電源アダプター×1
3. マニュアルとチート・シート
4. 製品登録カード

必要なもの

1. MIDIキーボードまたはMIDIコントローラー
2. MIDIケーブル
3. USBケーブル(コンピュータとの接続用：USB-MIDI)
4. 6.35mm標準プラグ仕様の楽器用ケーブル(アンプ等との接続用)または3.5mmミニプラグ仕様のヘッドフォン

セットアップと接続

注意：時折本マニュアル全体をよくお読みになり、Sirinの機能について理解を深めてください。

セットアップ

パッケージを開ける際は本体の破損やケガなどのないよう十分にご注意ください。また、梱包箱は何らかの理由でSirinを発送する場合に備えて保管しておくことをお勧めします。

電源とMIDIの接続

付属の電源アダプターをSirinのリアパネルの12VDC電源ジャックに接続します。電源アダプターはユニバーサル・パワーサプライを採用していますので、AC100～240V、50/60Hzの電源に対応しています。MIDIの接続には5ピンDINコネクターのMIDIケーブルを使用し、MIDIコントローラーのMIDIアウトとSirinのMIDIインを接続します。SirinはMIDIチャンネル1を受信するように設定されていますので、送信側のコントローラーのMIDIチャンネルも1に設定します。USB-MIDIでご使用の場合は、USBケーブルでSirinのUSBポートとコンピュータを接続します。Sirin用USBドライバーは自動的にインストールされ、お使いのMIDIソフトウェアのMIDIデバイス選択のところに「Moog Sirin」(Mac OSXまたはWin7)あるいは「USBオーディオデバイス」(Win XP)と表示されます。

電源を入れる

SirinとMIDIコントローラーの電源を入れます。

アンプに接続する

Sirinのボリューム・ノブを最低にしてからアンプやミキサー、またはヘッドフォンに接続してください。アンプのボリュームを適度に上げてから、音を出しながらSirinのボリュームを少しずつ上げて適度な音量に調節してください。

注意：音量を調節する際、特にサブウーファーをご使用の場合は十分にご注意ください。

演奏する

MIDIコントローラー等でSirinを演奏したり、Sirinのパネル上で音作りをしてお楽しみください!

Sirinエディター/ライブラリアン・ソフトをダウンロードする

Moogウェブサイト(www.moogmusic.com/register)で製品登録をすると、フリー・エディター/ライブラリアン・ソフトのダウンロードができます。このソフトにより、プリセットのセーブやロード、Sirinの全パラメーターへのアクセスが可能となります。製品登録をすることで、最新のアップデート情報なども入手できます。

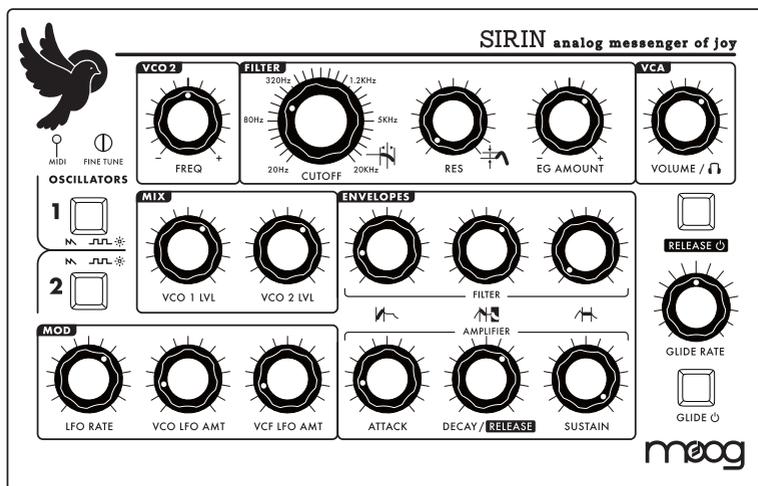
注意：Sirinをご使用の際は、チューニングが安定するまで約15分ほど電源を入れたまま放置するウォーミングアップが必要です。ウォーミングアップにかかる時間は、長時間屋外に保管していた場合などでは多少長くなる場合があります。

Sirinの推奨動作温度は10°C~38°Cです。ご使用になる場所の気温がこの範囲外でも安全にお使いいただけますが、SirinのVCO(オシレーター)のチューニングが多少不安定になる場合があります。また、Sirinを直射日光下ではご使用にならないでください。

各パネルのオーバービュー

Sirinはオーディオ信号のシグナル・パスが100%アナログのモノフォニック・アナログ・シンセサイザーです。ベースになったのは伝説的なMoog Taurus 1とTaurus 3シンセサイザーです。Sirinには安定度が非常に高いボルテージ・コントロールド・オシレーター(VCO)を2基、伝統のMoogローパス・フィルター、2基のエンベロープ・ジェネレーター、モジュレーション回路を搭載しています。基本操作は分かりやすい「1ノブ1機能」を採用し、可搬性の高いコンパクトかつ堅牢なボディを採用しています。

フロントパネル



オシレーター

2基のボルテージ・コントロールド・オシレーターにノコギリ(Taurusオリジナル)と矩形波の波形切り替えスイッチがあります。

ミックス

VCOの音量を個別に調節できるミキサーです。

フィルター

伝統のMoog 24dB/Octローパス・フィルターとレゾナンスです。

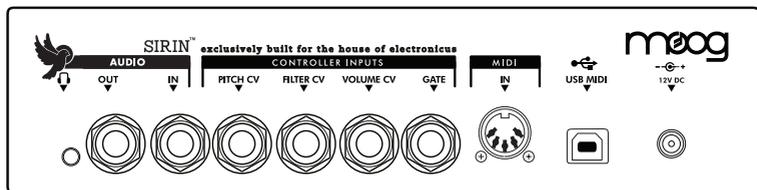
エンベロープ

2基のMinimoogスタイルのADSRエンベロープ・ジェネレーターで、VCF(フィルター)とVCA(アンプ)をモジュレーションします。エンベロープのディケイとリリースはDECAYノブで調節し、リリースのオン/オフはRELEASEスイッチで切り替えます。

モジュレーション(MOD)

MIDIクロックとの同期が可能なロー・フリケンシー・オシレーター(LFO)です。レイト(周期)コントロールのほか、VCOとVCFのモジュレーション量(AMOUNT)を個別に調節できるノブがあります。

リアパネル



ヘッドフォン・アウト

3.5mm(ミニジャック)のヘッドフォン・アウトです。

オーディオ・アウト(AUDIO OUT)

6.35mm(標準ジャック)のオーディオ・アウトです(不平衡)。

オーディオ・イン(AUDIO IN)

外部オーディオ信号をSirinのミキサーとフィルターに通して音を加工できます。

コントローラー・インプット(CONTROLLER INPUTS)

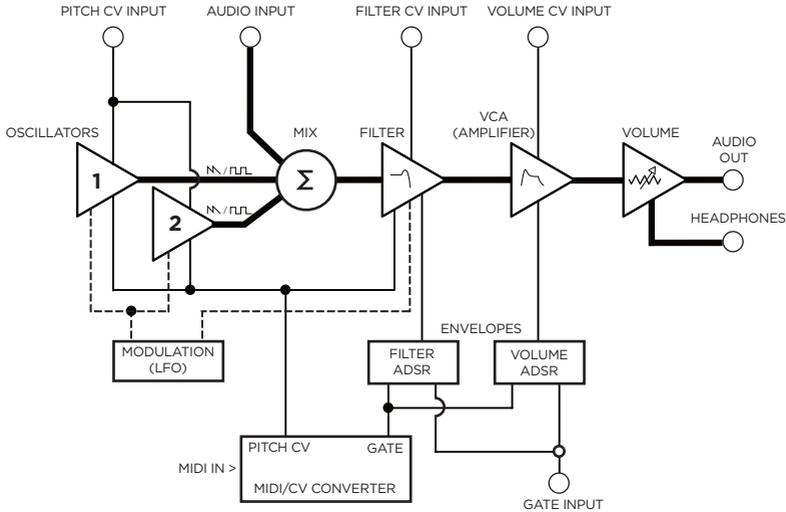
ピッチ(PITCH CV)、フィルター(FILTER CV)、ボリューム(VOLUME CV)、ゲート(GATE)のアナログ・コントロール・インプットです。コントロール・ポルテージ(CV)またはMoog EP-3エクスプレッション・ペダルを接続して、Sirinをモジュラー・システムなどCV対応機器からコントロールできます。

MIDI

5ピンDINコネクタのMIDIインとUSBポート(USB-MIDI)です。Sirinの演奏や音作りなどで使用します。

シグナル・フロー

Sirinがどのように音を出しているかを理解するために、下の図をご覧ください。これは、Sirinのオーディオ信号、コントロール・ボルテージ(CV)、モジュレーション信号の流れを示した図です。太線がオーディオ信号で、図の左から右へ流れます。細線はコントロール・ボルテージ(CV)で、上から下へ流れます。点線はモジュレーション信号の流れです。



Sirinのオーディオ信号の源流は2基のボルテージ・コントロールド・オシレーター(VCO)で、外部オーディオ信号とミキサーでミックスされます。ミキサーの出力からフィルターに入り、ここでフィルターの各パラメーターとフィルターADSRエンベロープの設定に従って音色が加工されます。その信号は次にアンプ(VCA)へ入り、ここでボリュームADSRエンベロープの設定に従って音量の時間的な変化を作ります。そこからオーディオ信号は最終段のアウトプット・セクションに入り、VOLUMEノブで最終的な音量を設定します。

Sirinを使用する場合、メインのコントロール源にMIDIを使うのが一般的かと思います。SirinがMIDIノート・オン・コマンドを受信する都度、それに反応してピッチCVとゲート信号が生成されます。ピッチCVはオシレーターの音程をコントロールする信号で、ゲート信号はフィルターとボリュームのADSRエンベロープをトリガーする(スタートさせる)信号です。

SirinはCVとゲートを使った、いわゆる"オールドスクール"な方法でもコントロールできます。MIDIとCV/ゲートの両方で同時にコントロールできますが、コントロール信号の組み合わせによっては、思った通りにならない結果になる場合もあります。

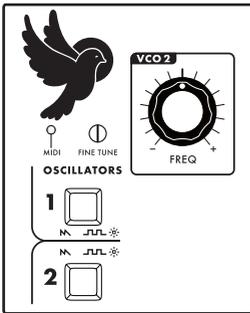
注意 : DINコネクターのMIDIインからの信号は、USBのMIDIアウトにはスルーされません。

基本操作

SirinはDINコネクターとUSBポート両方からのMIDIインプットで受信したMIDIメッセージに反応します。また、Sirinのノブやスイッチの動きをMIDIコントロール・チェンジ(CC)コマンドとしてUSBポートから送信し、それをDAWなどのMIDIレコーディング機器で記録(レコーディング)できます。SirinにはMIDIインジケータLEDがあり、DINコネクターあるいはUSBポートからMIDIメッセージを受信する都度点灯します。さらにSirinの機能を拡張する追加パラメーターがあり、それらはMIDIコントロールでアクセスできます。MIDI CCコマンドのリストは22~23ページをご覧ください。

コンポーネンツ

オシレーター



オシレーターはSirinのメインのサウンド・ソースです。電気的な振動の周波数をコントロールして、その信号を増幅して音として聴こえるようになります。SirinのVCOは6オクターブの範囲で発音できます。

オシレーター1 (VCO1) はオシレーター2 (VCO2) のチューニングも制御するマスター・オシレーターとして機能します。2つのスイッチで各オシレーターの波形(ノコギリ波/矩形波)を切り替えます。FINE TUNEで両方のオシレーターのマスター・チューニングを調節します。

両方のオシレーターのピッチ(周波数)は、色々なソースで変化させることができます。メインのソースは外部MIDIコントローラーやDAWから送信されるMIDIノート・オン・コマンドです。ノート・オン・コマンドは2つのオシレーターを平均律で演奏できるコントロール・ボルテージに変換されます。その他のコントロール・ソースとしては、グライド(GLIDE)回路、VCO2 FREQ、PITCH CV INPUT、FINE TUNE、モジュレーション(LFO)回路の出力があります。

オシレーター部のパネル・コントロール

OSCILLATOR 1スイッチ (CC#70) :

VCO1の波形をノコギリ波(LED消灯)または矩形波(LED点灯)に切り替えます。

OSCILLATOR 2スイッチ (CC#71) :

VCO2の波形をノコギリ波(LED消灯)または矩形波(LED点灯)に切り替えます。

VCO 2 FREQノブ (CC#17) :

VCO1の周波数(ピッチ)に対するVCO2のオフセット値を調節します。オフセット値は±1オクターブの範囲で調節できます。ノブがセンター位置でVCO2とVCO1ピッチが同じ(ユニゾン)になります。

FINE TUNE :

両方のVCOの周波数(ピッチ)を上下約半音の範囲で微調整します。このツマミはMIDIメッセージは送信しません。

MIDIでアクセス可能なパラメーター

VCO 2 BEAT (CC#18) :

VCO2の周波数オフセットの微調整です。±50セントの範囲で調節できます。
デフォルト設定=64

NOTE SYNC (CC#81) :

オンの場合、ノート・オン・コマンドを受信する都度、両方のオシレーターのスタート位相を強制的に合わせ発音します。これにより、音の出だしがパワフルな感じになります。
デフォルト設定=オフ

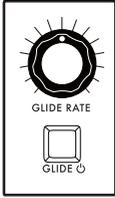
外部コントロール

リアパネルのPITCH CVジャックはオシレーターのピッチを外部からコントロールできるCVインプットです。このインプットに入ったCVで、両方のオシレーターの周波数をコントロールします。CVが1V変わるとピッチが1オクターブ変わります(1V/Oct)。入力できるCVは0~+5V、またはMoog EP-3などのエクスペッション・ペダルも接続できます。

パフォーマンス・ティップス

- パンチのあるベースラインを作る場合、NOTE SYNCをオンにすると音の出だしの感じが均一になります。
- 変化のない一定のCVをリアパネルのPITCH CVジャックに入れると、両方のオシレーターの基本ピッチをオフセットできます。これを利用して、両方のオシレーターを自由にトランスポーズさせることができます。
- クラシックなMoog Taurusサウンドを再現する場合、片方もしくは両方のオシレーターの波形をノコギリ波にセットします。

グライド



グライド(別名ポルタメント)は音程間の変化をスムーズにする音楽的エフェクトです。SirinのGLIDE RATEノブで瞬時から極めて長時間まで調節できます。

グライドのパネル・コントロール

GLIDEスイッチ (CC#65) :

グライド機能のオン/オフを切り替えます。オンの場合、LEDが点灯します。

GLIDE RATEノブ (CC#5) :

前に弾いた音程から次に弾く音程にスムーズに到達するまでの時間(スピード)を調節します。

MIDIでアクセス可能なパラメーター

GLIDE TYPE (CC#92) :

Sirinには次の3種類のグライド・タイプがあります : リニア・コンスタント・レイト(LCR)、リニア・コンスタント・タイム(LCT)、エクスポネンシャル(EXP)。LCRを選択した場合、グライドの変化速度(グライド・レイト)が一定になります。LCTではグライドの変化時間(グライド・タイム)が一定になります。EXPを選んだ場合は、グライド・レイトが最初は急激に変化して、ターゲットの音程に近づく而变化がゆっくりになるエクスポネンシャル・カーブで変化します(Moog Taurusと同様)。

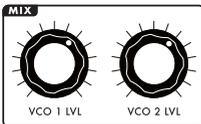
デフォルト設定=LCR

LEGATO GLIDE (CC#83) :

通常、グライドは新しくノート(音)を弾くたびに発生しますが、レガート・グライドをオンにすると、レガート奏法(前の音が完全にノート・オフになる前に次の音をノート・オンする奏法)で弾いたときにだけ、グライドがかかります。

デフォルト設定=オフ

ミキサー(オシレーターレベル)



各オシレーター(VCO1&VCO2)に個別のノブがあり、それぞれのオシレーターの音量を0~100%の範囲で調節できます。**注意**: ノブの向きが2時の方向から上ではオシレーターの音がクリップし始め、アグレッシブなサウンドになります。

ミキサー部のパネル・コントロール

VCO 1 LVLノブ (CC#15) :

VCO1のレベルを設定します。

VCO 2 LVLノブ (CC#16) :
VCO2のレベルを設定します。

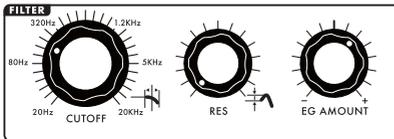
MIDIでアクセス可能なパラメーター

EXTERNAL INPUT LEVEL (CC#27) :

外部オーディオの入力レベルを調節します。デフォルト設定では、このレベルはユニティ・ゲインにセットされていますが、最大200%まで調節できます。

デフォルト設定=64

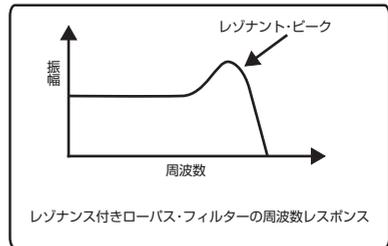
フィルター



フィルターはMoog伝統の24dB/Octローパス・フィルターにレゾナンスが付いています。CUTOFF(カットオフ・フリクエンシー)でフィルターの効果が効き始める周波数を設定します。また、RESONANCE(レゾナンス)でカットオフ・フリクエンシー付近の帯域を強調する量を設

定します。

フィルターの音色の加工にはカットオフとレゾナンスだけで行う固定的な方法とダイナミックな方法の2種類があります。ダイナミックな方法ではフィルター・エンベロープ・ジェネレーター(EG)やロー・フリクエンシー・オシレーター(LFO)、あるいは外部CVを使うこともできます。



フィルター部のパネル・コントロール

CUTOFFノブ (CC#19) :

ローパス・フィルターのカットオフ・フリクエンシーを20Hz~20kHzの範囲で調節します。ノブを時計回りに回していくと、カットオフ・フリクエンシーが上昇してより多くの倍音がフィルターを通過し、より明るいサウンドになります。逆に、ノブを反時計回りに回していくと、暗めのサウンドになっていきます。

注意 : SirinではCUTOFFノブを下げ切ると音が出なくなることがあります。

RESONANCE (RES)ノブ (CC#21) :

フィルターの出力から入力へ再入力(フィードバック)する信号量を調節します。フィードバック量が上がるとカットオフ・フリクエンシーで設定した周波数のピークが高まり、最終的には自己発振に至ります。

EG AMOUNTノブ (CC#22) :

フィルター・エンベロープ・ジェネレーター(EG)でフィルターのカットオフ・フリケンシーを上げたり下げたりする量を調節します。EG AMOUNTノブがポジティブ(+)の範囲にセットした場合は、CUTOFFノブを左へ回しておくことで効果が分かりやすくなります。

EG AMOUNTノブをネガティブ(-)の範囲にセットした場合は、CUTOFFノブを右へ回しておくことで効果が分かりやすくなります。カットオフ・フリケンシーが非常に高い場合、EG AMOUNTをポジティブ側に設定しても効果がほとんどないか、聴感上まったくない状態になることがあります。同様に、カットオフ・フリケンシーが非常に低い場合、EG AMOUNTをネガティブ側に設定すると、効果がほとんどないか、まったくない状態になることがあります。

MIDIでアクセス可能なパラメーター

FILTER KB TRACKING (CC#20) :

受信したMIDIノート・オンの値(ノート・ナンバー)に従ってカットオフ・フリケンシーを変化させる量を設定します。変化幅は0~200%の範囲で調節できます。

デフォルト設定=32(約50%)

FILTER VELOCITY SENSITIVITY (CC#89) :

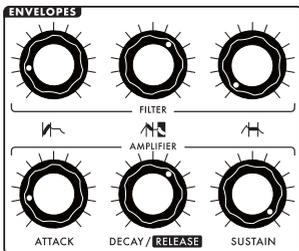
受信したMIDIノート・オン・ベロシティの値でカットオフ・フリケンシーを変化させる量を設定します。

デフォルト設定=64

外部コントロール

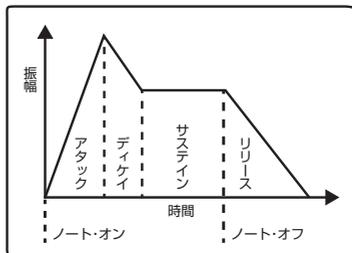
リアパネルのFILTER CVジャックは外部CVを使ってフィルターのカットオフ・フリケンシーをコントロールするための端子です。この端子に入力したCVは、パネル上のCUTOFFノブの設定に加算されます。入力したCVが1V変化すると、カットオフ・フリケンシーが1オクターブ変化します(1V/Oct)。入力できるCVは0~+5Vで、Moog EP-3などのエクスプレッション・ペダルも接続できます。

エンベロープ



エンベロープ・ジェネレーター(EG)はノート・オン以後の音に変化をつけるセクションです。SirinにはMinimoogスタイルのエンベロープ・ジェネレーターが2基あり、フィルター(VCF)のカットオフとアンプ(VCA)のボリュームをそれぞれコントロールすることで、音の明るさと音量の時間的な変化を作り出します。

EGはゲート信号やMIDIノート・メッセージを受けてスタートします。スタートすると、ATTACK、DECAY/RELEASE、SUSTAINの各ノブの設定や、RELEASEスイッチ、そしてノート・オンの状態の長さによって刻々と変化していきます。



エンベロープ部のパネル・コントロール

FILTER ATTACKノブ (CC#23) :

フィルターEGのアタック・タイム(EG出力がゼロから最大レベルに達するまでの時間)を、1 msec (1000分の1秒)から30秒までの範囲で設定します。

FILTER DECAY/RELEASEノブ (CC#24) :

フィルターEGのディケイとリリースの時間を設定します。ノート・オンを受けてアタック・タイムの設定に従ってEGの出力が最大レベルに達すると、その瞬間からディケイの段階が始まり、サステイン・レベルに向かってEGの出力が変化します。ノート・オフ(ゲートがオフ)になると、EGの出力レベルはこのノブで設定した時間でゼロに戻ります(リリース)。

この時間は1 msecから30秒までの範囲で設定できます。EGがリリースの段階に入るかどうかは、RELEASEスイッチ(オン/オフ)で設定します。

FILTER SUSTAINノブ (CC#25) :

ディケイの段階の後、リリースの段階の前のフィルターEGの出力レベルを設定します。サステイン・レベルに到達するためには、アタックとディケイ・タイムよりも長くノート・オンの状態を続けておく必要があります。このレベルは0~100%の範囲で設定できます。

AMPLIFIER ATTACKノブ (CC#28) :

アンプEGのアタックの段階にかかる時間(アンプEGの出力がゼロから最大レベルに達するまでの時間)を設定します。アタック・タイムは1 msecから30秒の範囲で設定できます。

AMPLIFIER DECAY/RELEASEノブ (CC#29) :

アンプEGのディケイとリリースの段階にかかる時間を設定します。ノート・オンを受けてアタック・タイムの設定に従ってEGの出力が最大レベルに達すると、その瞬間からディケイの段階が始まり、サステイン・レベルに向かってEGの出力が変化します。ノート・オフ(ゲートがオフ)になると、EGの出力レベルはこのノブで設定した時間でゼロに戻ります(リリース)。

この時間は1 msecから30秒までの範囲で設定できます。EGがリリースの段階に入るかどうかは、

RELEASEスイッチ(オン/オフ)で設定します。

AMPLIFIER SUSTAINノブ (CC#30) :

ディケイの段階の後、リリースの段階の前のアンブEGの出力レベルを設定します。サステイン・レベルに到達するためには、アタックとディケイ・タイムよりも長くノート・オンの状態を続けておく必要があります。このレベルは0～100%の範囲で設定できます。

MIDIでアクセス可能なパラメーター

OUTPUT (VCA) VELOCITY SENSITIVITY (CC#90) :

MIDIノート・ベロシティの値でアンブをコントロールする量を設定します。
デフォルト設定=64(50%)

外部コントロール

リアパネルのGATEジャックは、+5Vのゲート信号を受けられるトリガー入力です。ゲート信号を受けると、フィルターとアンブ両方のエンベロープが同時にトリガーされてスタートします。

注意 : GATEジャックに入ったゲート信号は、MIDIによるトリガーよりも優先して動作します。その場合でもオンレーターのピッチやモジュレーション量のコントロールはMIDIで行えますが、エンベロープのトリガーはゲート信号を取り除かない限りMIDIではコントロールできません。

リリース



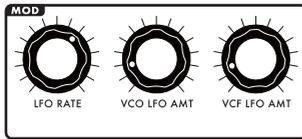
RELEASEスイッチで、両方のエンベロープ・ジェネレーターがリリースの段階に入るかどうかを切り替えます(オン/オフ)。オンの場合、エンベロープのリリース・タイムはディケイ・タイムと同じになります。つまり、DECAYノブでディケイ・タイムとリリース・タイムの両方が設定されます。オフの場合、ノート・オフ・メッセージを受信する(またはゲート信号がゼロになる)と、エンベロープはリリースの段階に入らず、ノート・オフの時点でエンベロープが停止します(エンベロープの出力レベルがゼロになります)。

リリース部のパネル・コントロール

RELEASEスイッチ (CC#68) :

両方のエンベロープ・ジェネレーターのリリース機能のオン/オフを切り替えます。
オンの場合、LEDが点灯します。

モジュレーション(MOD)



モジュレーションは音楽的に表現力のある音作りにとって重要なパートです。Sirinのモジュレーション部には周期を調節するRATEノブと、オシレーター(VCO)やフィルター(VCF)をコントロールする量を設定するAMOUNTノブを備えたLFOがあります。ロー・フリケンシー・オシレーター(LFO)はVCOのピッチやフィルターのカットオフ・フリケンシーを自動的に上下に揺らす信号を出力します。これにより、VCOのピッチに使用すればビブラートに、フィルターのカットオフに使用すればウォブルなフィルター・スイープなど、色々なシンセサイザー・サウンドが作れます。

モジュレーション部のパネル・コントロール

LFO RATEノブ (CC#3) :

LFOの周波数を0.01Hz~100Hzの範囲で設定します。

VCO LFO AMOUNTノブ (CC#13) :

LFOでVCOのピッチを上下に揺らす最大量を±1オクターブの範囲で設定します。この設定は、両方のオシレーターに同時に適用されます。MIDIノート・ナンバー72以上ではこの設定は省略されます。MIDIコントローラーをご使用の場合、モジュレーション・ホイール(CC#1)でLFOによるピッチ・モジュレーションのフェイドイン/フェイドアウトをコントロールできます。

VCF LFO AMOUNTノブ (CC#12) :

LFOでフィルターのカットオフ・フリケンシーを上下に揺らす最大量を±5オクターブの範囲で設定します。カットオフ・フリケンシーが20kHz以上または20Hz以下になる変化は省略されます。MIDIコントローラーをご使用の場合、モジュレーション・ホイール(CC#1)でLFOによるフィルター・モジュレーションのフェイドイン/フェイドアウトをコントロールできます。

MIDIでアクセス可能なパラメーター

LFO MIDI SYNC ON/OFF (CC#87) :

SirinのLFOをMIDIクロック・メッセージに同期するかどうかを切り替えます(オン/オフ)。デフォルト設定=オン

LFO SYNC CLOCK DIVISION (CC#86) :

LFOの同期ソースがMIDIクロックにセットされている場合のLFOクロック分割を設定します。クロック分割の全設定は24ページの表をご覧ください。この場合、LFO RATEノブでクロック・ディバイダーを切り替えます。デフォルト設定=4 Whole Notes

LFO KEY TRIGGER (CC#82) :

MIDIノート・オン・メッセージの受信時またはゲート信号を入力した時にLFOの周期をリトリガー(リセット)するかどうかを設定します(オン/オフ)。デフォルト設定=オフ

注意 : Sirinの電源投入時、VCO LFO AMOUNTとVCF LFO AMOUNTの設定はVCOとVCFを直接コントロールするように動作します。この動作はMIDIモジュレーション・ホイール・コマンドを受信するまで続き、受信した時点でモジュレーション量がモジュレーション・ホイールでコントロールできるようになります。

ボリューム (VCA)



Sirinのリアパネルにはモノラルのオーディオ・アウトとヘッドフォン・アウトがそれぞれあります。両方のアウトプットの音量はVOLUMEノブで調節します。

ボリューム部のパネル・コントロール

VOLUMEノブ:

ボルテージ・コントロールド・アンプリファイアー (VCA) 以後の出力とヘッドフォンのレベルを調節します。ノブを右いっぱいにはじくと最大出力になり、左いっぱいにはじくと無音になります。このノブはVCAコントロールよりも後段にあるため、MIDI CCの送受信はしません。

MIDIでアクセス可能なパラメーター

OUTPUT LEVEL (CC#7):

オーディオ・アウトとヘッドフォン・ボリュームのレベルを調節します。

VOLUME VELOCITY SENSITIVITY (CC#90):

MIDIノート・ベロシティの値でアンブ・エンベロープの振幅を比例的にコントロールする量を設定します。キーボードのタッチで音量が変わるタッチ・センスと同様です。
デフォルト設定=64(50%)

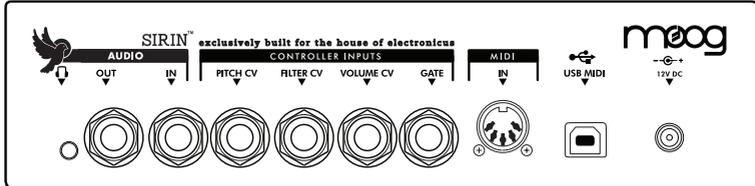
外部コントロール

リアパネルのVOL CVジャックは、出力レベルを外部CVでコントロールする場合に使用します。CVが0VでSirinが無音になり、+5VでVOLUMEノブを最大にした状態の出力レベルになります。入力できるCVは0~+5Vで、Moog EP-3などのエクスプレッション・ペダルも接続できます。

インプット/アウトプット・パネル

リアパネルには、すべてのインプットとアウトプットがあります。オーディオ・インプット/アウトプットのほか、CVやGATEインプット、MIDIコネクタ（DIN/USB）、電源コネクタがあります。なお、Sirinには電源スイッチはありません。

リアパネル



12VDC(電源コネクタ)

バレル・タイプのコネクタで、入力電圧はDC12Vです。AC100-240V、50/60Hz対応、チップ・ポジティブ(センター・プラス)の電源アダプター(付属)から電源を受けます。

CONTROLLER INPUTS

PITCH、FILTER、VOLUMEの各CVインプットは給電されており、Moog EP-3などのエクスプレッション・ペダルが接続できるほか、0～+5Vのコントロール・ボルトテージ(CV)も入力できます。また、GATEインプットは+5Vのトリガー信号を入力できます。

MIDI(DIN & USB)

DINコネクタのMIDIインプットとUSBポート(MIDIインプット/アウトプット)です。

AUDIO IN

AUDIO INジャックには外部からのオーディオ信号を入力でき、SirinのVCO出力とミックスされてフィルターで加工することができます。Sirinのフロントパネルには外部オーディオの入力レベルをコントロールするノブはありませんが、MIDI CC#27で最大200%までの範囲で調節できます。

AUDIO OUT

AUDIO OUTジャックからはアンバランス(不平衡)ラインレベルのオーディオ信号が出力され、アンプやミキサーなどに接続できます。

HEADPHONE OUTPUT

3.5mmミニジャックのステレオ・ヘッドフォン端子です。32Ωかそれ以上のインピーダンスのヘッドフォンをご使用ください。

パフォーマンス・ティップス

- AUDIO INジャックにオーディオ信号を接続することで簡単にオーディオ信号の加工ができます。外部オーディオ信号の音を聴くには、MIDIノート・オン・メッセージをSirinに送信する必要があります。MIDIノート・オン・メッセージを使わずに外部オーディオ信号の音を聴くには、GATEジャックに+5Vの信号を入力します。これによりゲートが開いたままの状態にでき、ゲート信号がオフになるまでアンブ・エンベロープはサステイン・レベルをキープし続けます。
- Sirinのオーディオ・インプットは単音のオーディオ信号だけでなく、ポリフォニックのオーディオ信号も使用できます。例えば、MIDI対応のポリフォニック・キーボードからのオーディオ信号をSirinのAUDIO INジャックに接続し、VCO1とVCO2のMIXレベルをゼロにします。これでポリフォニック・キーボードの音をSirinのフィルターとエンベロープで加工でき、デジタル・キーボードの音色もアナログ回路でウォーミングアップできます！

MIDI機能

MIDIチャンネル

Sirinが送受信できるMIDIチャンネルは1種類のみです。デフォルト設定では、MIDIチャンネル1になっていますが、任意のMIDIチャンネル(1~16)に変更できます。変更手順は次の通りです：

1. MIDIコントローラーまたはDAWをSirinに接続します。
2. MIDIコントローラー(またはDAW)で変更したいMIDIチャンネルを送信するように設定します。
3. Sirinの4つのパネル・スイッチ(VCO 1 WAVE、VCO 2 WAVE、GLIDE、RELEASE)を長押しします。するとそれぞれのLEDが点滅し、MIDIチャンネルの変更待機モードに入ります。この状態でSirinが受信したMIDIメッセージ(ノート・オン、CC、ピッチベンド、等々)のMIDIチャンネルが、Sirinの新しいMIDIチャンネルに設定されます。
4. ラーン・モードに入り、MIDIコントローラーのキーボードを弾きます(あるいはDAWからMIDIデータを送信します)。するとSirinのMIDIチャンネルがリセットされて、送信されたMIDIメッセージと同じにチャンネルに設定されます。

変更したMIDIチャンネルはSirinのメモリーにセーブされ、電源を切ってもキープされます。

ピッチベンド・レスポンス(レンジ)

デフォルト設定では、PITCH BEND RESPONSE(ピッチベンド・レスポンス)は±3半音に設定されています。ピッチベンドのアップとダウンのレスポンス(レンジ)はMIDI CC#107(ピッチベンド・アップ)とMIDI CC#108(ピッチベンド・ダウン)で個別に設定できます。MIDI CCの値とレンジとの関係は23ページの表をご参照ください。

モジュレーション・ホイール(MODホイール)レスポンス

MIDIモジュレーション・ホイール・メッセージ(MIDI CC#1)で、VCO(オシレーター)とVCF(フィルター)のLFOによるモジュレーションの深さをコントロールできます。それぞれのモジュレーションの最大量は、パネル上のVCO LFO AMT、VCF LFO AMTの各ノブで設定します。

MIDIコントロール・チェンジ(CC)メッセージ

22～23ページの表はSirinで使用できるすべてのMIDI CCメッセージをまとめたものです。コントロール/パラメーター名に(M)とあるものは、MIDIでのみアクセスできるパラメーターです。値のコラムのうち、太字のものは7ビット・メッセージ(MSB)用の値のレンジです。

注意：

- Sirinはすべてのパラメーターで7ビットのMIDI CCで送信します。受信の場合は、ノブのパラメーターについては7ビットまたは14ビットで、スイッチのパラメーターは7ビットのみで受信します。
- すべてのパラメーターでMSBとあるのは通常のCCナンバーで、LSBは高精度のいわゆるファイン・コントロール用のナンバーです。Sirinに7ビットのMIDI CCを送信する場合は、MSBのナンバーをご使用ください。MSBのメッセージを送信する場合、その値は常に0～127の範囲になります。

コントロール・パラメーターについての注意

ローカル・コントロール・オフ(CC#122)：

このパラメーターはフロントパネルをMIDIメッセージ送信用にし、Sirinの音源部とパネルとの接続が遮断されます。このパラメーターの値はMIDIの規定により、0と127のみが動作するようになっていきます(0=オフ、127=オン)。USBでDAWとSirinを接続して使用する場合、ローカル・コントロールをオフにすることでMIDIメッセージがループしてしまうことを防げます。ローカル・コントロールのオン/オフを変更した場合、次に変更するまでその状態をキープします(電源を切ってもリセットしません)。

オール・サウンド・オフ/オール・ノート・オフ(CC#120または123)：

この2つのパラメーターはいわゆる「MIDIパニック」機能で、MIDIメッセージのエラーなどにより音が止まらなくなってしまった場合に強制的に音を止めるための機能です。同じMIDIパニックでもコントローラーやDAWによって実際に送信するのがこのどちらかですので、Sirinではその両方に対応させています。

MIDIコントロール・チェンジ(MIDI CC)リスト

セクション	コントロール/パラメーター	機能	CC	値/レンジ
モジュレーション	LFO RATE	LFOの周期	3(MSB) 35(LSB)	0~127
	LFO VCO AMOUNT	VCOへのモジュレーション量	13(MSB) 45(LSB)	0~127
	LFO VCF AMOUNT	VCFへのモジュレーション量	12(MSB) 44(LSB)	0~127
	LFO MIDI SYNC (M)	LFO周期のMIDIクロックとの同期	87	0~63(内部) 64~127(MIDI)
	LFO SYNC CLOCK DIV (M)	LFO同期時のクロック・ディバイター	86	24ページの表参照
	LFO KEY TRIGGER (M)	LFO周期のリトリガー(デフォルト=オフ)	82	0~63(オフ) 64~127(オン)
オシレーター	VCO 1 WAVE	VCO1の波形選択	70	0~63(ノコギリ波) 64~127(矩形波)
	VCO 2 WAVE	VCO2の波形選択	71	0~63(ノコギリ波) 64~127(矩形波)
	VCO 2 FREQ	VCO2の周波数調節	17(MSB) 49(LSB)	0~127 (64=センター)
	VCO 2 BEAT (M)	VCO2のビート周波数調節(デフォルト=64)	18(MSB) 50(LSB)	0~127
	NOTE SYNC (M)	ノート・シンクのオン/オフ(デフォルト=オフ)	81	0~63(オフ) 64~127(オン)
	GLIDE RATE	グライド(ポルタメント)のレイトタイム	5(MSB)	0~127
	GLIDE SWITCH	GLIDEスイッチのオン/オフ(オンでLED点灯)	65	0~63(オフ) 64~127(オン)
	GLIDE TYPE (M)	グライドのタイプ切替: リニア・コンスタント・レイト、 リニア・コンスタント・タイム、 エクスポネンシャル	92	0~42(LCR) 43~84(LCT) 85~127(EXP)
	LEGATO GLIDE (M)	グライド・オン時のレガート・モード切替(デフォルト=オフ)	83	0~63 (常時グライド) 64~127(レガート奏法時のみグライド)
ミキサー	VCO 1	VCO1の音量レベル	15(MSB) 47(LSB)	0~127
	VCO 2	VCO2の音量レベル	16(MSB) 48(LSB)	0~127
	EXTERNAL IN LEVEL (M)	外部音声入力レベル(デフォルト=64(50%))	27(MSB) 59(LSB)	0~127
フィルター	CUTOFF	カットオフ・フリケンシー	19(MSB) 51(LSB)	0~127
	RESONANCE	レゾナンス	21(MSB) 53(LSB)	0~127
	EG AMOUNT	フィルターEGによるモジュレーション量	22(MSB) 50(LSB)	0~127
	FILTER KB TRACK (M)	フィルターのキーボード・トラックング(デフォルト=32(約50%))	20(MSB) 54(LSB)	0~127
	FILTER VELOCITY SENSITIVITY (M)	フィルターのベロシティ感度調節(デフォルト=64(50%))	89	0~127

セクション	コントロール/パラメーター	機能	CC	値/レンジ
エンベロープ	VCF ATTACK	フィルターEGのアタック・タイム	23(MSB) 55(LSB)	0~127
	VCF DECAY/RELEASE	フィルターEGのディケイ/ リリース・タイム	24(MSB) 56(LSB)	0~127
	VCF SUSTAIN	フィルターEGのサステイン・ レベル	25(MSB) 57(LSB)	0~127
	VCA ATTACK	アンブEGのアタック・タイム	28(MSB) 60(LSB)	0~127
	VCA DECAY/RELEASE	アンブEGのディケイ/ リリース・タイム	29(MSB) 61(LSB)	0~127
	VCA SUSTAIN	アンブEGのサステイン・ レベル	30(MSB) 62(LSB)	0~127
	RELEASE SWITCH	RELEASEスイッチのオン/ オフ(オン時LED点灯)	72	0~63(オフ) 64~127(オン)
	TRIGGER MODE (M)	エンベロープトリガーの設定 (デフォルト=レガート・オン)	73	0~42(レガート・オン) 43~84(レガート・オフ) 85~127(EGリセット)
ボリューム	VCA (OUTPUT) LEVEL (M)	オーディオ・アウトと ヘッドフォン・アウトの音量	7(MSB) 39(LSB)	0~127
	VOLUME VELOCITY SENSITIVITY (M)	ボリューム・ベロシティの感度 調節 (デフォルト=64(50%))	90	0~127
キーボードレスポンス	KEY PRIORITY (M)	複数鍵打鍵時の発音優先設定 (デフォルト=後着優先)	91	0~42(低音優先) 43~84(高音優先) 85~127(後着優先)
MODホイールレスポンス	MOD WHEEL (M)	モジュレーションの コントロール	1(MSB) 33(LSB)	-
ピッチホイールレスポンス	BEND UP AMOUNT (M)	バンドアップのレンジ (デフォルト=+3半音)	107	0~15(オフ) 16~31(2半音) 32~47(3半音) 48~63(4半音) 64~79(5半音) 80~95(7半音) 96~111(12半音) 112~127(24半音)
	BEND DOWN AMOUNT (M)	バンドダウンのレンジ (デフォルト=-3半音)	108	
コントロール	LOCAL CONTROL OFF (M)	ローカル・コントロール (デフォルト=127)	122	0=オフ 127=オン
	ALL SOUNDS OFF (M)	MIDIバニック・メッセージ (全MIDIノートの強制停止)	120	どの値でも動作
	ALL NOTES OFF (M)	MIDIバニック・メッセージ (全MIDIノートの強制停止)	123	どの値でも動作

LFOクロック・ディバイダー(CC#86)のMIDI CCの値

音価(音符)	ディビジョン	値
64分音符3連	1/64 T	122~127
32分音符3連	1/32 T	116~121
32分音符	1/32	110~115
16分音符3連	1/16 T	104~109
16分音符	1/16	98~103
8分音符3連	1/8 T	92~97
付点16分音符	1/16 DOT	86~91
8分音符	1/8	80~85
4分音符3連	1/4 T	74~79
付点8分音符	1/8 DOT	68~73
4分音符	1/4	61~67
2分音符3連	1/2 T	55~60
付点4分音符	1/4 DOT	49~54
2分音符	1/2	43~48
全音符3連	WH T	37~42
付点2分音符	1/2 DOT	31~36
全音符	WH	25~30
全音符+2分音符	WH + 1/2	19~24
全音符×2	2 Whole	13~18
全音符×3	3 Whole	7~12
全音符×4	4 Whole	0~6

付録 A : MIDIインプリメンテーション・チャート

機能	送信	受信	備考
ベーシック・チャンネル			
デフォルト	1	1	
変更	1~16	1~16	ユーザー設定可能
モード			
デフォルト	NO	4	ノート・プライオリティ
メッセージ	NO	NO	MIDI CC# 91
代用	NO	NO	
ノート・ナンバー	NO	0~127	
ベロシティ			
ノート・オン	NO	YES	
ノート・オフ	NO	NO	
アフタータッチ	NO	NO	
ピッチ・ベンド	NO	YES	0~±24半音の範囲で設定可能
コントロール・チェンジ	YES	YES	1, 3, 5, 7, 12, 13, 15~25, 27~30, 33, 35, 37, 39, 44, 45, 47~57, 59~62, 65, 70~73, 81~83, 86, 87, 89~92, 107, 108, 120, 122, 123
プログラム・チェンジ	YES	YES	
システム・エクスクルーシブ	YES	YES	
システム・コマンド			
ソング・ポジション	NO	NO	
ソング・セレクト	NO	NO	
チューン	NO	NO	
システム・リアルタイム			
クロック	NO	YES	タイミング・クロックを受信
コマンド	NO	YES	
その他			
ローカル・オフ	NO	YES	
オール・ノート・オフ	NO	YES	
アクティブ・センス	NO	NO	
システム・リセット	NO	NO	

付録 B : Sirinのお手入れについて

清掃される際は、柔らかくこくわずかに水分を含んだきれいな布のみをお使いください。ベンジンや溶剤、クリーニング液等の液体は使用しないでください。また、本マニュアル冒頭部に記載の注意事項をよくお読みになり、ご理解いただいた上で本機をお取り扱いください。本機を落とさないでください。本機を修理等のために発送される際は、ご購入時の梱包箱もしくはATA仕様のロード・ケースをご使用ください。

安全上の重要な注意：本機のボディを開けないでください。本機の内部にはユーザー修理等が可能なパーツは入っておりません。修理やメンテナンスは、認定サービス・センターにご依頼ください。

付録 C : 仕様

タイプ：プログラマブル・モノフォニック・アナログ・シンセサイザー

シンセ・エンジン：

オシレーター・セクション：

- オシレーター1：
波形：ノコギリ波/矩形波
レベル：0～100%
- オシレーター2：
周波数：±12半音
波形：ノコギリ波/矩形波
レベル：0～100%
- グライド・レイト：0～100%

フィルター・セクション：

- カットオフ：20Hz～20kHz
- レゾナンス：0～自己発振
- フィルター・エンベロープ・アマウント：-100%～+100%

エンベロープ・ジェネレーター・セクション(x2)：

- アタック・タイム：1msec～30sec
- ディケイ・タイム：1msec～30sec
- サステイン・レベル：0～100%
- リリース・タイム：1msec～30sec
- リリース：オン/オフ

モジュレーション・セクション：

- LFO周期(LED付き)：0.01～100Hz
- 波形：三角波
- VCOへのアマウント：0～100%
- VCFへのアマウント：0～100%

付録 C : 仕様

パフォーマンス・コントロール :

- ファイン・チューン : ±1 半音
- グライド : オン/オフ
- リリース : オン/オフ
- マスター・ボリューム

リアパネル :

- DC 12V 電源インレット :
+12VDC 入力、センター・プラス
- モノフォニック・オーディオ・イン (6.35mm TS ジャック 不平衡) :
最大 +4dBu のラインレベル信号を入力可能
- モノフォニック・オーディオ・アウト (6.35mm TS ジャック 不平衡) :
- ヘッドフォン端子 (3.5mm TRS ミニステレオ・ジャック)
- コントロール・ポルテージ・インプット :
ピッチ CV : 0 ~ +5V
フィルター CV : 0 ~ +5V
ボリューム CV : 0 ~ +5V
ゲート : +5V トリガー
- DIN MIDI : MIDI インプット (5ピン DIN)
- USB-MIDI : MIDI インプット/アウトプット

外形寸法 :

- 222.3 (W) x 130.2 (D) x 79.4 (H) mm

質量 :

- 1.2kg

オペレーティング・システム :

- フラッシュメモリー (MIDI SysEx でアップデート可能)

消費電力 :

- 7W

*仕様は予告なく変更することがあります。

Moog は Moog Music Inc. の登録商標です。

Moog のワードマークは Moog Music Inc. の登録商標です。

Moog アイコンは Moog Music Inc. の登録商標です。

Sirin は Moog Music Inc. の商標です。

WWW.MOOGMUSIC.COM

アフターサービス

■ 保証書

本製品には、保証書が添付されています。
お買い求めの際に、販売店が所定事項を記入いたしますので、「お買い上げ日」、「販売店」等の記入をご確認ください。記入がないものは無効となります。
なお、保証書は再発行致しませんので紛失しないように大切に保管してください。

■ 保証期間

お買い上げいただいた日より一年間です。

■ 保証期間中の修理

保証規定に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。
本製品と共に保証書を必ずご持参の上、修理を依頼してください。

■ 保証期間経過後の修理

修理することによって性能が維持できる場合は、お客様のご要望により、有料で修理させていただきます。ただし、補修用性能部品（電子回路など）のように機能維持のために必要な部品の入手が困難な場合は、修理をお受けすることができませんのでご了承ください。また、外装部品（パネルなど）の修理、交換は、類似の代替品を使用することもありますので、あらかじめお買い上げの販売店、最寄りのコルグ営業所、またはサービス・センターへお問い合わせください。

■ 修理を依頼される前に

故障かな?とお思いになったらまず取扱説明書をよくお読みのうえ、もう一度ご確認ください。
それでも異常があるときはお買い上げの販売店、最寄りのコルグ営業所、またはサービス・センターへお問い合わせください。

■ 修理時のお願い

修理に出す際は、輸送時の損傷等を防ぐため、ご購入されたときの箱と梱包材をご使用ください。

■ ご質問、ご相談について

アフターサービスについてのご質問、ご相談は、お買い上げの販売店、最寄りのコルグ営業所、またはサービス・センターへお問い合わせください。
商品のお取り扱いに関するご質問、ご相談は、お客様相談窓口へお問い合わせください。

WARNING!

この英文は日本国内で購入された外国人のお客様のための注意事項です
This product is only suitable for sale in Japan.
Properly qualified service is not available for this product elsewhere. Any unauthorised modification or removal or original serial number will disqualify this product from warranty protection.

株式会社コルグ

お客様相談窓口 TEL 0570 (666) 569

●サービス・センター：〒168-0073 東京都杉並区下高井戸1-18-16 KORG桜上水ビル2F

輸入販売元: KORG Import Division
〒206-0812 東京都稲城市矢野口4015-2
WEB SITE: <http://www.korg.com/jp/kid/>

KORG

本社: 〒206-0812 東京都稲城市矢野口4015-2

URL: <http://www.korg.com/jp/>